

## 5. 基本的な方針

前章までの検討から、本計画の基本的な方針を次のように整理する。県南地域が 5.1 の将来像を目指すために、地域公共交通が 5.2 の役割を果たすべく、5.3 の方向性で活性化・再生に取り組んでいく。

### 5.1. 地域が目指すべき将来像

- (1) 長崎空港（航空路）、諫早駅（長距離列車、将来の新幹線）等の広域交通拠点を通じて人が行き交う。
- (2) 世界遺産やジオパーク、国立公園「雲仙」を活用した「健康」「温泉」リゾートとして人を呼び込む。
  - ① これらの地域資源を最大限に活用し、都市部住民に対する憩い・癒しの提供の場として、また、体験学習や農村漁村部の温かい地域コミュニティに触れることなどを通じた人づくりの場として、都市部との交流人口が拡大。
  - ② 観光客に長く滞在してもらい、さらにはリピーターとして再度訪問してもらう。
- (3) 県南地域四市がそれぞれ個別の取組みを行うだけでなく各々の強みを最大限に活かして広域的に取組み、外国人来訪者の増加、将来の新幹線の開業等による人、モノ、情報の多様な交流の拡大の効果を最大限に享受する。

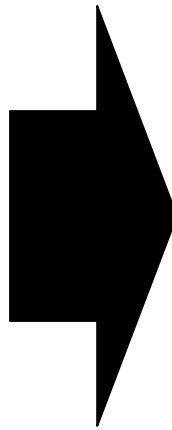
### 5.2. 公共交通が果たすべき役割

- (1) 運転のできない学生・生徒、高齢者、障害者、妊産婦等の広域的な移動手段を確保すること。広域的な住民の通勤・通学、通院、買物等の日常生活上不可欠な移動に加え、文化活動やコミュニティ活動、「遊び」のための活動、その他様々な活動のための外出を容易にすることを通じて、外出機会の増大を図ること。
- (2) 観光客等の来訪者の広域的な移動の利便性や回遊性を向上させること。
  - － 各市域内におけるコンパクトなまちづくり、まちなぎわいの創出、健康増進等のまちづくりの戦略における地域公共交通の果たすべき役割とも整合を図る。
- (3) 以上の役割を効果的かつ着実に実現するために、次の事項を確保すること。
  - ① 持続可能で安全・安心な運送サービスを提供できる健全な事業体制の確保等
  - ② 鉄道、バス、旅客船等の物理的な近接をはじめとする快適な乗換拠点の整備、ダイヤの連携、乗継運賃の設定等
  - ③ 定時性の確保、速達性の向上

### 5.3. 公共交通の活性化及び再生に向けた取組みの方向性

#### 公共交通の課題（再掲）

- (1) 利便性を確保しつつ、事業者の既存の事業資源を有効に活用した事業者・行政にとっても無理のない、合理的で効率性を向上させた公共交通網への再編等。
- (2) 広域的な周遊観光にも利用しやすく魅力のある公共交通網への再編、利便性向上等。
- (3) 老朽化した事業資源（バス車両、鉄道施設等）の合理的な更新。
- (4) 公共交通の事業主体を確保・維持するための事業者の経営構造の見直し。



#### 取組みの方向性

- (1) 事業者の既存の事業資源（バス車両、鉄道施設、乗務員等）を有効に活用した、事業者・行政にとっても無理のない、合理的で効率性を向上させた公共交通網への再編等。
- (2) 地域住民の広域的な移動と合わせ広域的な周遊観光にも利用しやすく魅力のある公共交通網への再編、利便性向上等。  
観光客の宿泊（消費）を増やしたい⇒滞在時間を延ばそう⇒県南地域内で周遊させよう⇒周遊地点の量・質を向上させよう⇒周遊ルートを作ろう⇒周遊ルートの利便性を高めよう⇒利用増で観光振興と地域公共交通持続可能性向上
- (3) 観光振興に資すると共に観光需要を取り込み、もって地域公共交通の持続可能性を確保・維持。
- (4) 老朽化した事業資源（バス車両、鉄道施設等）の合理的な更新、公共交通の事業主体を確保・維持するための事業者の経営構造の見直し。